

当院におけるギムザ染色標本の チェックポイント

独立行政法人 大阪市民病院機構
大阪市内立十三市民病院

大瀬 香菜

第46回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会

利益相反の有無：無

※この演題に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。



染色試薬

- ・ 1/15M リン酸緩衝液 (pH6.8)
- ・ メイグリーンワルド染色液 (武藤化学)
- ・ ギムザ染色液 (武藤化学)

ギムザ使用染色液 (使用時調整)

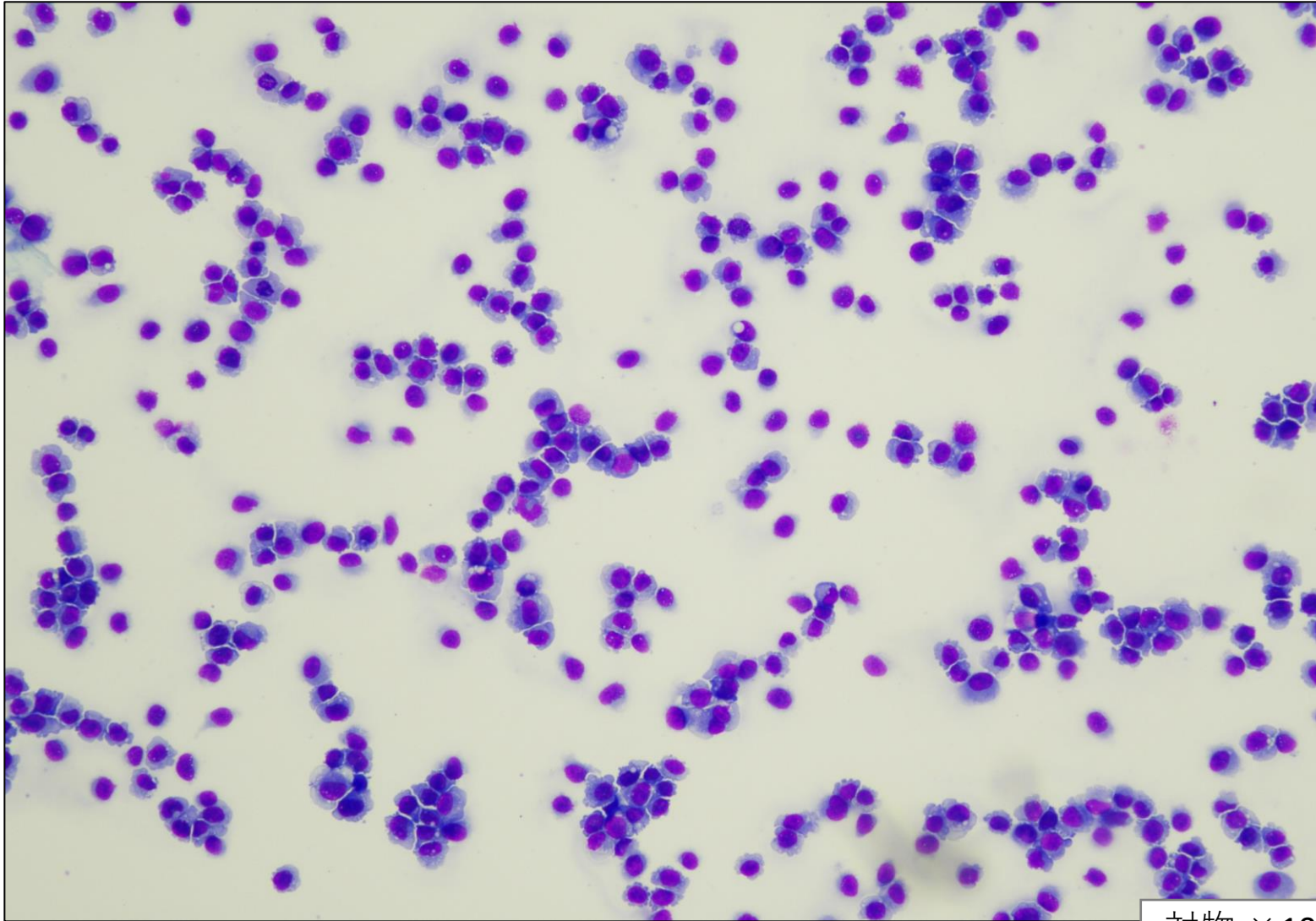
上記リン酸緩衝液 + 蒸留水 (等量混合) に
ギムザ染色液を1/10量

染色方法

- 1) 擦り合わせ標本を、ドライヤー冷風で10～30分乾燥 (十分に)
- 2) メイグリーンワルド染色液にて3分間 染色固定
- 3) 水道水で軽く水洗 (余分な液を流す程度)
- 4) ギムザ使用染色液にて10～15分 染色
- 5) 水道水にて水洗
- 6) 鏡検
- 7) 冷風にて乾燥→封入



弱拡大でのチェックポイント（標本の良し悪し）

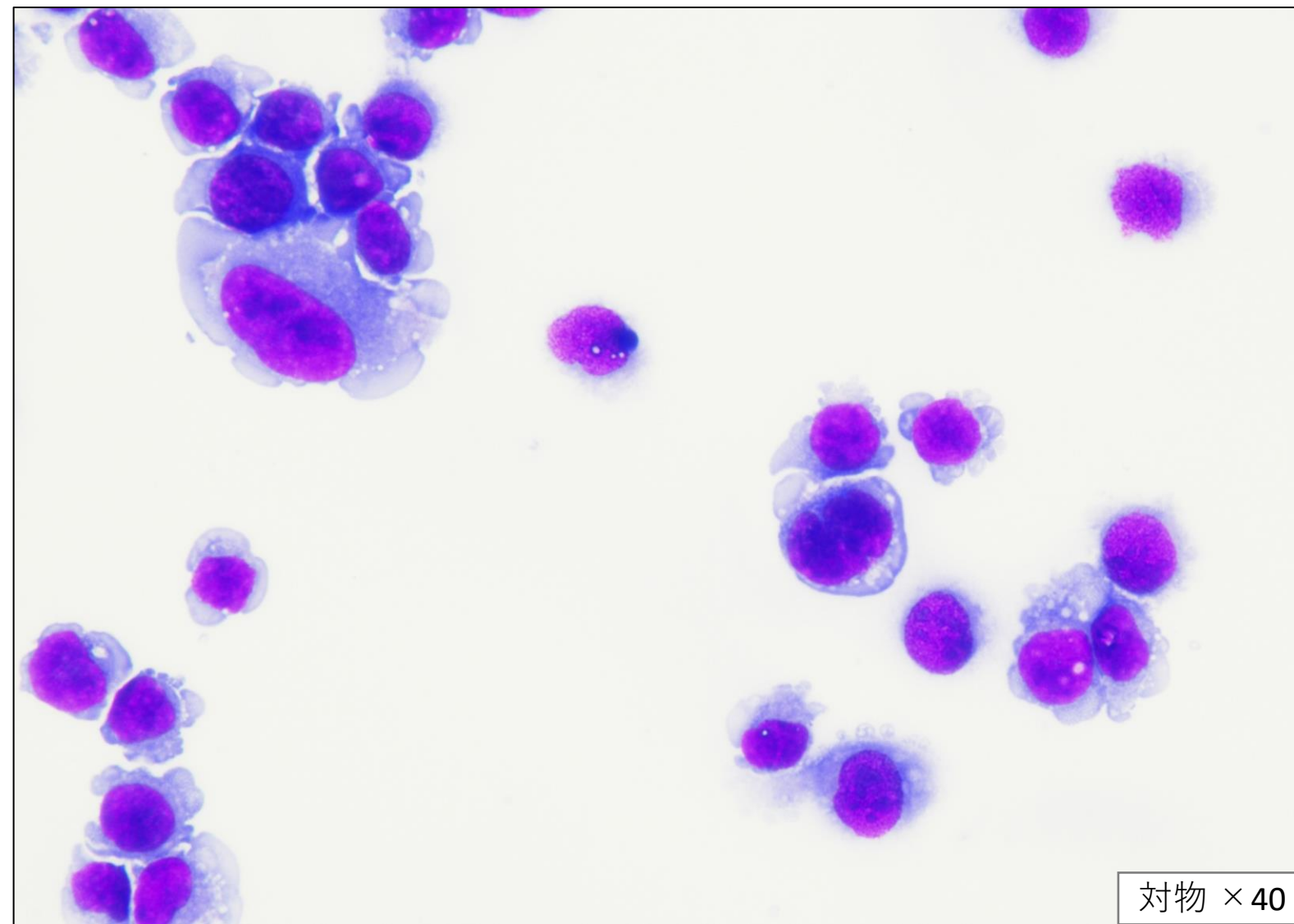


対物 × 10

- 乾燥の不具合による細胞の濃縮が無いのか
- 1つ1つの細胞境界が明瞭であるか
塗抹具合が適当であるか
- 赤血球の染色性を見て、
適正な pH かどうか
- 中皮細胞や異型リンパ球等の細胞質が
好塩基性に染色されているか
- 異染性の有無



強拡大でのチェックポイント



○細胞の出現態度

結合性があるのか、散在性か
個々の異型性の有無

○細胞質の染色性

泡沫状であるか、好塩基性かなど
好酸性顆粒などの細胞質内顆粒の有無

○核小体を含む核の染色性

クロマチンの状態

○プレブなどが、はっきり見られるか

